



広い調理場で調理員さんたちが大量の給食を作ります



専用のトラックで学校へ運ばれます



この釜では1,000食分が一度に作られます



みんなの給食どうやって作るの？
熊谷学校給食センターを取材！

1日1万3千食をつくりま

本市の学校給食は、熊谷地区と江南地区ではそれぞれの給食センターで調理し、小・中学校に配送しています。大里地区と妻沼地区では各小・中学校にある調理室で作っています。

熊谷学校給食センターは、

昭和56年9月から、熊谷地区の小学校(19校)、中学校(12校)の給食を調理、配送しています。調理数は、1日約1万3千食、年間で約240万食です。衛生管理を第一とし、バランスの取れた栄養や子どもたちの嗜好も考え日々の献立を工夫して、栄養士、給食調理員等が給食作りに努力しています。



子どもたちに輝く笑顔と健康を

～学校での食育推進～

食べることは生きるの基本です。未来を担う子どもたちの健やかな成長のために「食」は何よりも重要です。本市では子どもたちが食を選ぶ力や正しい食習慣を身に付けて「食の自立」ができるよう「食育」に取り組んでいます。

◆学校教育課 ☎ 内線 314 ◆熊谷学校給食センター ☎ 048-521-5410



近年の家庭における子どもたちの食生活をみると、外食や調理済みの食事が増えるなど、食生活が乱れ、肥満や生活習慣病などの健康被害が問題になっていきます。また、核家族化、共働き等の社会環境の変化に伴い、家庭で子どもの食生活を十分に把握し、管理していくことが困難な時代です。

しかし、子どもに対する食育は生涯にわたって健康を維持し、生き生きと暮らしていくための基礎となるものです。そこで、学校では給食の時間をはじめ、学級活動や家庭科、保健体育の授業において、望ましい栄養や食事の摂り方、マナー、食文化など正しい知識を理解させ、自ら判断できる能力や感謝の気持ちを育てています。主な取り組みとしては、栄養教諭が授業や集会の中で講話をしたり、直接授業を行ったりとあります。また、給食月間には、給食集会やポスター掲示などとして、食育に対する意識を高めています。

本市では市内全戸に、「熊谷の子どもたちは、これができます！」「4つの実践」と「3減運動」のリーフレットを配

布し、この取り組みをお願いしています。その中の特に朝ごはんをしっかりと食べるこそ、食育の基本です。家族そろって楽しく食卓を囲み、コミュニケーションを深めながら、規則正しい食生活を身に付けるために、「家族いっしょの食事」を心がけていきましょう。



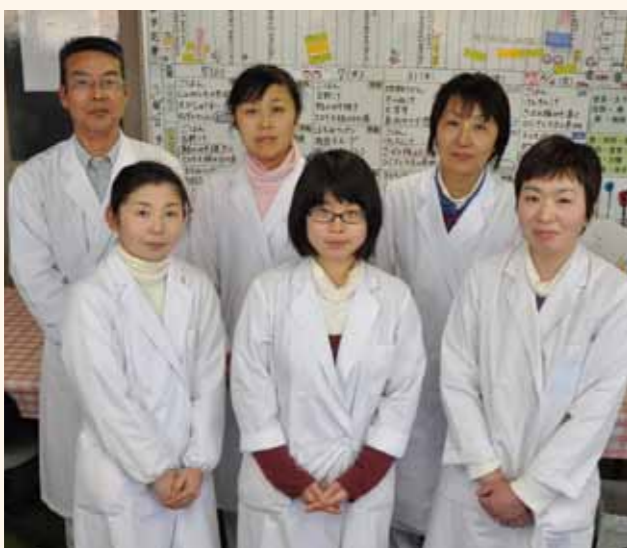
調理中に温度測定を行います

食育の教材として

食育の一番身近にある教材は、子どもたちが毎日食べている、安全で安心な栄養のバランスのとれた学校給食です。学校給食は、お弁当を持たず参れない子どもたちのために始められました。現在では食育としての役割もあります。子どもたちは学校給食で献立から食べ物や栄養や働きを知り、配膳や食べ方、はしの持ち方、あいさつ、片付けなど総合的に食に関することを学びます。「ふるさと給食の日」には、地場産農産物を使った給食で農家の方々がどんなものを作っているのか、地元は何が名産なのかも知ることができます。

熊谷学校給食センター 増田まゆみさん(栄養士)

献立作成は決められた食材費、限られた施設・設備のなかで、子どもたちの好みや栄養価を考え、いろいろな食材で多くのメニューを提供できるようにしています。季節の物や旬の野菜も取り入れています。地元の野菜などを食材に使った月1回の「ふるさと給食の日」には、吟子汁や白玉を入れた直実汁などの郷土メニューもあります。メニューのなかでもカレーは大人気で、先生、保護者の方にも好評です。子どもたちがおいしく食べてくれることがやがいです。給食は残さずすべて食べることで、必要な栄養が取れるようになっています。特に成長期に必要なカルシウムは、1日摂取量の半分は含まれています。子どもたちには牛乳を含めて残さず食べてほしいですね。



熊谷学校給食センター所長(後列左)と5人の栄養士さん 増田さんは前列左

Interview



思いとつまじく
繋いだたすき

1月26日、晴天の中、第26回熊谷めぬま駅伝大会が開催されました。沿道からの温かい声援にはげまされながら、ランナーは必死にたすきを繋ぎました。ゴール付近では、走り終えた仲間が最終走者を笑顔で待ち受ける姿が見られました。



縁起物を求め
星川へ

2月7日、星川だるま市が星川通りで行われました。今年は、日用雑貨や衣類などお買い得品を販売する初市も復活し、多くの人で賑わいました。



地域連携に
興味津々

1月27日、立正大学で第7回産学官連携まちづくりフォーラムが開催されました。立正大学の地域連携の取組みをテーマに基調講演と事例報告が行われ、参加者は興味深い様子で耳を傾けていました。



各所に豆まき、
福よこせ！

2月3日、高城神社、妻沼聖天山、吉見神社など市内各所で厄除けや開運を願って節分の豆まきが行われ、多くの参拝客等で賑わいました。



大きなヤマトイモを
収穫したよ

1月20日「グリーンツーリズムイン 妻沼」が行われました。ネギやヤマトイモの収穫では、大はしやぎで収穫する子供達の姿が、吟子鍋づくりでは、親子が協力してネギを切る姿が見られました。

表敬訪問
今年も豊作



1月31日、「愛媛いよかん大使」が市長を表敬訪問しました。いよかん大使は、太陽の光を豊富に浴びた愛媛県特産のいよかんを笑顔でPRしていました。

災害時協定
締結調印式



1月21日、世田谷区との間で「大規模災害時における相互応援に関する協定」の締結調印式が行われました。これは、大規模災害発生時に、被災者の救援等、相互に連携して支援し合うためのものです。



読んで当てよう
市報クイズ



今月の問題

次の□に入ることを、それぞれお答えください。

- ①第□回熊谷さくらマラソン大会が3月24日(日)に開催されます。
- ②熊谷□祭は4月4日(木)からです。

今月のプレゼント

自家製パスタの店 詩知里屋ご提供の、パスタを、正解者の中から抽選で20人に提供します。詩知里屋 所在地:星川2-85 電話:048-521-5307 (営業時間10:30~14:30、16:30~20:00) ※車でお越しの際は近隣の有料駐車場などをご利用ください。

今月のテーマ「ゴールデンウィークの過ごし方」にいただいたコメントは、「おたよりパレット」や市ホームページで紹介させていただく場合があります。

応募方法

ハガキまたはEメールに、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・今月のテーマ「ゴールデンウィークの過ごし方」のコメントを必ず記入し、3月22日(金)までにご応募ください(一人につき一通)。

※コメントがないものは無効となります。
《応募先》〒360-8601 宮町二丁目47番地1 熊谷市広報広聴課
☑ kohokocho@city.kumagaya.lg.jp

※なお、市内の商店・企業を知っていただくという趣旨で、当選者には月末頃にプレゼント引換券をお送りしますので、お店でご使用ください。当選者の発表は、プレゼント引換券の発送をもって代えさせていただきます。

1月号の
正解

- ①夢 ②リニューアル ◆応募総数35通中、正解33通

市報クイズでは、プレゼントを提供していただける商店・企業等を募集しています。詳しくは、広報広聴課 ☎内線212までお問合せください。

市報クイズ1月号で寄せられた
ご意見を紹介します。
おたよりパレット
テーマ

「あなたの防災対策」

みなさん、万が一に備え様々な対策をされているようです。日頃から心掛けておくことが大切ですね。
※おたよりパレットは、市ホームページでも更詳しく紹介しています▶<http://www.city.kumagaya.lg.jp/>

- 防災リュックに入れて用意しています。①乾パン、ビスケット②水③メモ用紙、ペン(70代・女性)
- 東日本大震災を教訓に避難・連絡・備蓄をメインに家族1人1人の防災意識の徹底を日頃から訓練しています。(50代・男性)
- 自宅において可燃物を屋外に置かないよう心がけています。放火をさせないスローガンが我が家の標語です。(50代・女性)
- 夜、寝る前や外出前に暖房器具やガス・電気など「指さし確認」をしています。(50代・女性)
- 非常持ち出し袋完備。あと、家族同士で、もしもの時には各々、荒川公民館か南小学校に行く決めてあります。もしもの時がないことを願ってやみません。(50代・女性)



社会にでたら秘書になりたい。体が不自由な母に代わって事業家の父をサポートしたい。こんな思いからマナーや美しい立ち居振る舞い、コミュニケーション力を身につけるため、フィニッシュ

自信を持つための挑戦

情熱世代

夢追い人

支えてくれる人たちの声が

私のモチベーション

安田衣里さん(大里地区出身)

(ミス日本ファイナリスト)

グスクールの門を叩きました。この学校はミスコンのファイナリストを育成する学校でもあったため、幸運にも卒業時にミス日本の東日本大会に推選していただくことになりました。当時、色々悩んでいて自分を好きになれなかったのですが、「ミスコンに出れば自分に自信が持てるかもしれない」「自分を好きになれるかもしれない」との思いから参加を決心しました。

家族と地元が私を支える

東日本大会のエントリー数は約2,000人。多くの選考を経て、幸運にもこの大会で入選し、ミス日本のファイナリストになりました。しかし、これで終わってはいけない。グランプリが決まるまでは毎週のように勉強会に参加しなければいけません。勉強会では自分のふがいなさに苦しんで、投げ出したくなることもありましたが、地元の人の応援やいつも身近で支えてくれる家族の励ましで、最後まで乗り越えることができました。熊谷に帰ると家族をはじめ地域の人が応援してくれるので、私に大きな力を与えてくれます。市長の富岡様やニャオざねくんが応援してくれたと



レッスンを受ける安田さん(左)

次なる目標を目指して

今回は活動を通して学んだことが二つあります。一つは目標に対して最後までやりきることの大切さ。やりきれば、結果に關わらず、得るものが必ずあるんだと思います。もう一つは本当の感謝の気持ち。これほど多くの人に支えられて、ものごと打ち込んだことは今までなかったかもしれない。活動を通して自分の内面を見つめ直したことで、「ありがとう」の感謝の一言が自分の中で重みを増した気がします。ミス日本は不本意な結果でしたが、ファイナリストになった経験をかきかき、これからは次なる目標である世界4大会のミスコンテストを目指して自分を磨いていきたいです。熊谷の皆さんの励ましがあれば、私はどんな苦難でも前に向かって歩いて行けます。応援よろしくお願ひします。

安田衣里さんのツイッター
https://twitter.com/love_iniss

RUGBY WORLD CUP 2019年にラグビーワールドカップが日本にやってくる!

ラグビーワールドカップ2019組織委員会は、昨年10月に、試合開催会場地に関心を示している全国の自治体を対象に、3会場でワークショップを開催しました。

ワークショップではラグビーワールドカップ2019の概要の説明があり開催予定時期は、2019年9月～10月の6週間、本大会出場チームは20カ国、試合会場は国内10会場程度を予定しているなどです。

次に大会を開催する自治体に求められるものとして、1.適切な試合会場の提供 2.適切な宿泊施設、練習会場など大会運営上必要な施設の提供 3.大会運営への協力(セキュリティボランティアファンゾーン訪日者および観客へのもてなしなど)について、一昨年開催された、ニュージーランド大会の状況を参考に説明がありました。

- 平成25年2月1日現在(対前月比)
●人口 203,128人(-199) 男 101,291人(-106) 女 101,837人(-93)
■世帯 82,267(-38)
○平成25年5月～6月 試合会場のガイドラインを公表
○平成25年12月 開催申請書の提出締め切り

- 平成26年 試合会場地選考
○平成27年 試合会場の決定および発表
○平成28年 キャンプ地の選考
を予定している等の説明がありました。

埼玉県招致委員会では、この説明を受けガイドラインの発表を待つて組織委員会から求められる条件を満たすにはどのような改修が必要か、施設の設置者である埼玉県や管理者である(財)埼玉県公園緑地協会などと協議をしながら具体的な整備計画を策定していきます。

埼玉県招致委員会は、国内有数のラグビー場である熊谷ラグビー場での試合開催をめざし、招致活動を行ってきました。さる2月10日には、組織委員会に対し二度目の署名簿を提出し、合計で10万人を突破しました。今後も、試合開催をめざし活動を行っていきますので、皆様のご支援をお願いします。



署名簿を提出する埼玉県招致委員会富岡会長

写真提供: 埼玉新聞社

◆ラグビーワールドカップ招致室 ☎内線520

人口と世帯

●平成25年2月1日現在(対前月比)
●人口 203,128人(-199) 男 101,291人(-106) 女 101,837人(-93)
■世帯 82,267(-38)

「市報くまがや」3月号は、72,300部作成し、広告料収入を差し引いた印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり14円です。「市報くまがや」は、再生紙を使用しています。

発行日 平成25年3月1日 ●発行 熊谷市
編集 広報広聴課 〒360-0860 熊谷市宮町二丁目47番地1
TEL 048-525-4111(内線2006) FAX 048-525-0202(2870)

「市報くまがや」は、毎月1日(原則)に発行し、自治会を通してお届けします。また、市役所・行政センター・出張所・公民館・駅連絡所などでもお配りしています。インターネットでも「市報くまがや」をご覧いただけます。(URL) http://www.city.kumagaya.lg.jp/